

「平成27年度 学校関係者評価委員会の報告と学校の改善策」による改善結果

世田谷区立富士中学校

世田谷区立富士中学校 校長 小松 昌之

学校関係者評価委員会の報告 (回答を求めた項目)

学校の改善策

—学校関係者評価アンケートと自己評価報告書の分析の中から—

I 重点目標について

富士中では、学校の重点目標として「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」だけは、昨年からの教員の休職にともなう、子どもたちの戸惑いや、保護者の不安から、更に数値が下がったのではないかと思われます。具体的な対策を講じてはいるものの、結果に結び付けるための更なる努力が必要です。他2点の項目につきましては、ほぼ数値目標をクリアしています。

学校評価を踏まえて設定した重点目標のうち、「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」については、昨年度に引き続き、数値目標において課題を残しました。

保護者や生徒の学力向上に対する関心や期待は高く、確かな学力を育成するためには、教育の質の向上と量の確保が欠かすことのできない要因であり、質の向上を図るためにには、授業力向上は不可欠です。そこで、年間3回の授業研究と全教員が年1回以上の研究授業を実施し、「諸学力調査」や学校関係者評価による評価を全教員で検証し、指導方法の工夫・改善に取り組みます。保護者や地域の方々が、教育活動への理解を一層深めていただくとともに、協力や支援を受けながら、教育活動の更なる充実に向けた取組の工夫と改善に努めます。

年間3回の授業研究と、全教員が年1回以上の研究授業を実施することにより全教員で検証し、協議会では、外部から招いた講師の指導・助言を受けて、指導方法の工夫・改善に生かしました。「区学習習得確認調査」「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」の正答率は、学年や実施教科によって差はありますが、全教科、都の正答率を上回っており、学校関係者評価の肯定率は、前年度と比べると1ポイントプラスでした。しかし、60%の後半から70%の前半を、その年により推移しています。少なくとも、肯定率を70パーセント台がキープできるように、また保護者や生徒の学力向上に対する関心や期待に応えるために、今後もさらに研修や研究をとおして課題を明確にし、指導方法の工夫と改善を一層重ねながら、授業の充実を図ります。併せて、三者教育面談や保護者会等を活用して、これまで以上に、個々の学習の習得状況への認識と理解を深めるための機会を意図的に設けるなどの工夫に努めます。

II 地域とともに子どもを育てる教育について

地域運営学校に指定されて7年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、グリーンアカデミー、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。地域の方々と「出会い」、そこから「学び」「気付く」。出会った人たちの生き方や地域や社会で起きていることを知ることから、自分の生活や生き方を見つめ直す機会となっています。また「豊かな知力」「豊かな人間性」「ことばの力」を重点目標として、「富士の学び舎」の教育活動が取り組まれています。小学校5校と富士中とで作られた世田谷9年教育にのっとり、小中連携も計画的に行われています。それらの活動は継続され、安定していますが、更なる取り組みに期待します。

地域運営学校として、学校協議会の一層の充実を図り、情報を公開して、コミュニケーションを活性化させ、「学校運営委員会」との連携を深め、地域力の導入を図ることにより、開かれた学校づくりのための地域連携の充実を推進していきます。また、義務教育の9年間で育てたい力・資質の実現に向けた取組を充実させ発展させるために、地域の人材及び教育力活用の工夫にさらに努めます。併せて、学校協議会や地区委員会、諸便りなどをとおして、保護者・地域の方々に学校への理解をより一層深めていただき、御支援と御協力をいただきながら教育活動を推進します。

学校支援地域本部を設置したことにより、「学校運営委員会」との連携を深め、地域力の導入を図ることがスムーズとなり、開かれた学校づくりのための地域連携の充実を推進することができました。

しかし、保護者、地域ともに、肯定的な評価を得てはいるものの、「学校協議会」、「学校運営委員会」、

「学び舎の活動」について、依然として、「分からぬ」の評価が減少していません。活動に関する広報をどのように工夫するを考え、減少させるように努めています。

また、「ボランティア・地域活動への参加」の地域や保護者の肯定的評価は、昨年度に続き90%を超えるました。開かれた学校づくりのための地域連携の一つとして、地域活動・ボランティア活動を位置付け、推進しているので、今後も参加率を高める手立てを工夫し、生徒の思いやりの心や地域への感謝の心の育成をより一層推進することを課題として、次年度も継続することにより、地域連携の充実に努めています。

III 未来を担う子供を育てる教育について

富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、数学・英語における「少人数習熟度別授業」の実施、全教員による授業研究・指導方法の工夫を取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。量としては、授業時数の確保に努めています。さらに、富士中独自で実施している放課後学習・夏季補習教室や富士サタスタ、区の施策としての土曜講習会・朝授業(3年生)等も定着しています。また、職場体験学習は2年生を対象に9月に実施されました。地域社会の実践の場に立つことは、自立的に社会生活を送るために必要な「人間としての実践力や生きる力を育む」重要な学びの場となっています。さらに、富士中では昨年度から始まった「いじめ防止プロジェクト」が1年生を対象に4月に実施されました。重点目標である「確かな学力を育成すること」や「豊かな人間性を育むこと」、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。

学習指導に関する評価は、保護者・生徒ともに、概ね肯定的な評価です。授業時数の確保に関しては、年間の行事計画等を毎年見直しながら時数確保に取り組んできました。今後も、生徒の実態を加味しながら、授業時数の確保に向けて、一層の工夫を重ねます。また、各教科や総合的な学習の時間に生徒の思考が活性化する学習形態を工夫・考案し、学びの質を高めるアクティブ・ラーニングの充実を図っています。

分掌を中心とした指導の組織化を進めながら、月1回職員会議後に生活指導部会を開催することにより、報告・連絡・相談を徹底し、全教職員の共通理解に基づいた指導を展開しました。また、年3回の教育面談、年5回の生活実態調査や学校協議会における情報収集の結果を指導にも反映させました。そして、「人格の完成をめざして」の取組をとおして、きめ細やかな指導の下、校内秩序の確立を図るための指導の徹底にも努めました。しかし、今年度は校舎内での生活における規範意識がかけている場面も見受けられたので、生徒自らが正しく判断し、社会において正しく行動できる力を更に育てるために継続します。

今後も、指導の工夫と改善に取り組み、確かな学力と総合力の育成に努めます。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

学校経営方針に示された目標が、教職員には浸透しているものの、生徒・保護者においては学校の運営評価は昨年度より全体的に下がりました。昨年度から1年生全員に対し、スクールカウンセラーとの面談が実施され、認知度が昨年度に比べて少し上がりました。また「富士中だより」には、スクールカウンセラーからの「相談室より」に毎回、多岐にわたる情報が詳しく載っています。「相談室より」の内容は、大人にも役立つ情報です。保護者・地域の皆様には、ぜひお読み返しいただきたいと思います。また、ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進

本校では、「教育の質の向上」と「教育の量の確保」に努め、具現化に向けた様々な取組は本校の特色になっています。今後も、繰り返し学習する内容及び発展的に学習する内容を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、アクティブ・ラーニングを導入することにより、考える力(思考力・判断力・表現力等)を育てる学習を展開していきます。

また、生徒にとってよりよい学校生活を送ることができるよう、規律ある生活態度の育成や規範意識の醸成、より良い人間関係の構築等を目標とした指導に、今後も組織的に取り組みます。また、自他の生命を尊重する心やすべての人への思いやりの心を育てる人権教育の、より一層の充実にも努めます。

学校に対する保護者や地域の願いを理解し、学校経営方針に基づいた教育活動の推進に継続して取り組むとともに、保護者・地域にも浸透するように情報を幅広く発信するように努めます。また、教育ニーズに的確に応じた教育支援の在り方を追求し、個に応じた支援をとおして、個性や能力を発揮しながら人とかかわることのできる生徒の育成をめざすために、スクールカウンセラーや関係機関と連携した指導をより一層充実させます。

ゲストティーチャーをさらに活用することにより、生徒が自己の将来に見通しを持ちながら学校生

路指導やキャリア教育とともに多面的な成長に欠かせないエッセンスになっています。学校運営の今後の取り組みに、より一層の努力をお願いします。

活に臨み、自己実現に向けて意欲的に取り組むことができるようするための指導の工夫に取り組みます。

学校経営方針に示された目標に対する評価は地域・保護者とも、昨年度より全体的にあがりました。引き続き、学校に対する保護者や地域の願いを理解し、学校経営方針に基づいた教育活動の推進に継続して取り組むとともに、保護者・地域にも浸透するように機会があるごとに情報を幅広く発信するよう努めます。

Q－U調査の結果分析等をとおして、各教員の生徒理解や学級経営に関する資質や能力を向上させ、「教育相談ノート」を活用することにより、スクールカウンセラーや外部連携機関と連携を強化することで、個々の生徒が置かれている状況をより的確に把握することに努めました。

今後も学びの場を一層充実させるために、地域の方やゲストティーチャーとの関わりを大切にします。

V 教育環境の整備について

今年度まで冷水器5機が全て新しくなりました。昨年度、そのうちの1機の冷水器と排水管のつなぎ目から、悪臭がしているという指摘がありました。また、体育館棟トイレの悪臭対策も含め、今年度は改善されています。さらに、体育館の外壁コンクリート改修工事も完了しました。しかし、まだ未設置の教室へのエアコン設置や学校図書館の運営など、環境改善は引き続き御検討ください。また、地域の方の御厚意で絵画の寄贈があり、昇降口の廊下に設置されました。設置に至るまでの準備、関しましても、PTAの御協力に感謝いたします。

芸術作品に触れられる環境作りへの皆様の御協力に感謝するとともに、更なる連携をお願いします。

教育環境の整備について、区や保護者の方々の御理解のもと、区と連携を図りながら改善に取り組んできました。さらなる教育環境の整備に向けて、今後も、区との連携を図りながら継続的な改善に取り組みます。

また、学校図書館の運営については、生徒に本の魅力を実感させたり、読書と生活を関連付けさせたりすることで読書への意欲を高めるために、地域や保護者と連携した読書活動の工夫に取り組んでいきます。

学校に分割された予算による修繕、また学校主事による施設・環境の改善に努めていますが、老朽化に伴う修繕等の必要な箇所が突発的に発生するのが現状です。また、エアコンの設置されていない教室に関する課題は改善していません。生徒にとって安全・安心な生活を保障するためにも、安全点検に努めることをはじめ、引き続き区教育委員会とともに施設・設備の充実に取り組んでいきます。

地域や保護者と連携して学校図書館を開放することにより、「富士ビブリオバトル」を行い、生徒に本の魅力を実感させたり、読書と生活を関連付けさせたりすることで読書への意欲を高めました。

VI 学校生活全般について

肯定的な意見が生徒・保護者ともに、平均して73%程でした保護者の結果では、「学習指導について」「進路について・相談する機会が提供されている」「地域との連携について」の各項目が昨年度より上昇しました。特に学習指導については、全項目が上昇しました。アンケートの自由意見欄には、生徒・保護者から多様な意見が寄せられています。その期待に応えられるように、「豊かな人間性を育む～個に応じた教育支援の充実～」をテーマにした世田谷区研究指定校としての教育支援の工夫、成果も生かし、生徒一人ひとりが落ち着いた環境で学習や学校生活に取り組み、自己を成長させる活動に臨める学校づくりをお願いします。

教育計画に沿った教育活動を円滑に進めるために、様々な工夫をしています。これからも、生徒・保護者・地域の方々に教育計画の内容を正しく認識していただくための説明を継続し、理解を得ながら教育活動を進めるように配慮いたします。

一人ひとりの生徒が、教育活動の様々な場面で自己のもつ能力を十分に発揮しながら成長していくように、生徒理解を基本に、個に応じた指導と教育相談活動を充実させ、特別支援教育コーディネータやSCと連携を図りながら、生徒一人ひとりの心の安定を図り、個に応じたきめ細やかな指導を組織的に実践するための取組を継続させます。

生徒理解を基本に、個に応じた指導と教育相談活動を充実させ、特別支援教育コーディネータやSCと連携を図りながら、生徒一人ひとりの心の安定を図り、いじめやわがまま、不登校、暴力行為のない、互いに切磋琢磨し合う明るく豊かな人間関係を育んでいます。

学校生活全般に関わる「学校生活が楽しい」「中学校が好きである」の生徒の肯定的評価は、昨年度に続き80%前後でした。落ち着いた環境の中で、個々の生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、組織的な指導の充実及び個に応じたきめ細やかな指導・支援に一層努めます。